

講演会・全体会午前の部

司会者 ただ今より、講演会並びに全体会午前の部を行いたいと思います。午前の部司会を担当させていただきます、藍住中学校2年のf、藍住中学校2年のgです。よろしくお願いいたします。それでは早速パネルディスカッションに移りたいと思います。パネリストは松浦優さん、佐賀みことさん、清水香帆さん、コーディネーターは吉成正士さんです。どうぞよろしくお願いいたします。



吉成 おはようございます。吉成正士といいます。20年になります。前にもありますけどね。つくづくずっと考えてきたんですけども、20年前に、この20年後を果たして想像してきたのかなということもずっと考えてたんです。今の中学生のみなさんからすれば、生まれる前のことですよ。その生まれる前から始めてやってきたんですけども、20年前に今日のこの日を想像できたかっていうとね、本当に夢のような話です。私にしてみればね。実はこの会ですけども、いろんな回り道や寄り道や、たまには途中で道が途切れて断崖絶壁のようなこともありましたし、細い道のときもあったりね、登り道もえらく急な登り道のときもありましたし、えらく崖っぷちのような下り道のときもあったり、大変な20年だったなって、今振り返ってみています。今、中学生が今年は110人ぐらい

ですかね、100人超えてです。大人も入れると160人を超えた今日のこの会なんですけども、鳥取のみなさんとか、福井のみなさん、香川のみなさん、ようこそ徳島へ。ありがとうございます。実は、県外のみなさんが来てくださる直前のこの会っていうのは、激減した会だったんです。確か、5・60人でしたかね。80人ぐらいでしたか。激減した時期がありまして、実はそれは理由があったんですけども、すごく中学生が減っちゃって、学校数が減っちゃって、寂しい時期があったんですけども、そこに鳥取のみなさんが参加してきてくださった。香川のみなさんが参加してきてくださった。福井のみなさんが参加してきてくれてね。少なくなって、何かちょっと気持ちが萎んでいたところが、ぐわーって膨らんだわけです。今日もそうなんです。だから実はすごくありがたいんです。だから3県のみなさんからすれば、「来てるなー」みたいな感じかもしれないけども、地元徳島の中学生、長年たずさわっているスタッフの私たちからすれば、実はすごく本当にありがたい存在なんです。そういう感謝の気持ちを込めた、今日のこの20周年の会になっていこうかと思っています。今日は3人のみなさんにお話をいただくことにしました。実は



す。このステージの上に中学生が上がるということは、今まではありませんでした。だけど、私たちの一つの願いであり、ねらいとしてね、人権をテーマに、人権を本当に考えた

いってという若者をどう育てていくのか、次の世代の若者をどうつくり育てていくのかって言うことが、すごく大きな課題なわけなんです。だから今までには、多くの若者をこのステージに呼んできました。それで今回は、現実行委員長にステージに上がってもらおうと。これは実は、大きなチャレンジなんです。考えてみてくださいよ、中学生のみなさん。ここでしゃべれって言われたらどうですか。大丈夫だよ、しゃべれるよって言う子もいるかもしれないんだけど、やっぱりステージに上がって、100人を超えるようなみなさんの前でお話をするっていうのは、これはなかなか大変なことだと思います。だけど今回はチャレンジを試みようっていうことで、現実行委員長のお二人に話をしてもらおうっていうことにしました。それと、一番右端においでる松浦さんですけども、実はこの会の20年前、第1回実行委員長です。ですから、15+20で、歳が分かっちゃうわけなんですけども、松浦さんに上がってもらうことにしました。ですから、第1回と現実行委員長にお話をしてもらおうということです。どんな話になっていくのかっていうのは、この後の楽しみとさせていただきますので、まずは一番バッター、こちら国府中学校3年生の清水香帆さんから、お話をしてもらいます。実は国府中学校が参加するようになったのは、ある先生の働きかけもあって参加するようになったんですけども、その先生は、つい先週かな、テレビに出たの。出てたんですよ。先週だったと思うんですけども、NHKに四国羅針盤という番組があるんですが、そちらの方に出てまして、これから清水さんに話してもらうのも、つながりの中でこの話になっていったのかなって思える内容になっていますので、お話聞かせてもらいましょうか。まずは一人目、清水香帆さんです。拍手をお願いします。

清水 昨日、ご飯の前に先生と話をしたときに、

「建て前・縦じわ・他人ごと」が良くないって言われたんですけど。これは他人ではないんですけど、自分のお祖母ちゃんの話がメインになってしまうんですけど。お祖母ちゃんは、神山の方の出身のお父さんと、徳島県のどこか忘れてしまったんですけどお母さんが、満州国に行ったときに生まれたんですよ。



そのお祖母ちゃんが行ったときに戦争に負けてしまったんですけど。そのお祖母ちゃんの家近くにロシア人の幹部の方のお家があったって言うことで、その家の前のロシア人の兵隊の門番さんがいるらしかったんです。その方が、お祖母ちゃんとお祖母ちゃんの下に弟が一人いたんですけど、敗戦国の子どもやのにすごくやさしくしてくれて嬉しかったって言うよ。その兵隊さんが家に来てご飯食べたときに、その兵隊さんはロシアに子どもと奥さんを残してきてしまったから、私たちを、ロシアに残してきた子どもと重ね合わせて可愛がってくれてるのかもしれない、みたいな。そこでお祖母ちゃんは、一対一なら何も憎んでもないし、一人ひとりにつきあったら人間と人間だから心が通じるし、いい人たちなのに、国同士のことになったらゴチャゴチャになってしまうのは信じれんって言うてくれて。それでお祖母ちゃんが9歳の時に終戦になって、今から68年前に日本に帰ってきたんですけど、お祖母ちゃんはそのとお母さんやお父さんの仕事の都合で4回転校したらしいですよ。私は幼稚園から今の中学校までずっと国府幼稚園に行って、国府小学校

に行くと、国府中学校に行くとってやってきたから、転校した人の気持ちってどんなかになって、全然分らんかって。お祖母ちゃんに聞きよったら、どこの学校の子も最初は知らんし、興味もあるし、話しかけたり優しくしてくれたりしたけど、だんだん、入ってきた子やから、今までおった子と違うから、ちょっと無視されたりとか、言葉のアクセントが訛ったら真似されたりとか、ちょっと意地悪されていじめがあつて。軽くいじめられたけど、言い返せれんかったって言って。そこでお祖母ちゃんが言ったのは、そんな時に「いける？」って声かけてくれたら、たぶんごっつい心が楽になったと思うって言よって。いじめよる子にアカンよって止めに行くんもごっつい立派なことやし、ほれができたら一番ええことやけど、ほの勇気がなかつても、どうにかしてあげたいってなったら、いじめられよる子に「いける？」って言うたりとか、話しかけたりとか、寄り添いに行つてあげなさいって言われて。私は中学校3年生になって、中2の時から一緒のクラスの女の子がおるんですけど。私はもう一人の別の仲いい子と一緒になれたんですけど、ほの子は仲いい子と誰も一緒になれなくて、「二人グループ作りましょう」とかなったら、一人になってしまつたりとかした時があつて。お祖母ちゃんに、「一人でおる子がおつたら話しかけに行きつて言われたとき、香帆は小さいときからそういうことができとつた」って言うてくれたんですけど、今実際その子に話しかけに行くのも、行こうと思つたら行けるんですけど、久しぶりすぎてどういう感じで話しかけに行つたらいいか分からなくて、なかなかそれができてないけん、こういう会には参加してちゃんと学んではきよるはずなんですけど、そういうところが私はどんどんできなくなつていつてるんじゃないかなと思つて、ちょっと心配になってきました。

吉成 みなさん、満州って分かる？中学生のみんな。満州っていう国の名前、どこかで聞いたことある人、どれくらいいる？なにそれ？っていう人、手挙げてみて。いるよね。これはね、どちらかといえば、福井のみなさんの話になるかな。今日来てくれている高浜のみなさんね、福井県の一番西の端ですよ。そこ隣接する隣の町は、京都の舞鶴市という町なんです。京都の舞鶴市と、福井の高浜町が隣接しているんです。その舞鶴市に、舞鶴引揚記念館っていうのがあるんですよ。これ行ったことある方、どれくらいいますかね？やっぱり福井高浜の方は行くんですね。ぜひそんな情報なんかも寄せてもらえたらと思うんですけど。ちょうど去年の春に私、舞鶴引揚記念館に行つてきまして。どういう建物かというね、満州も含めて、第二次世界大戦で日本が負けたときに、中国大陸とか朝鮮半島とか台湾とか、いろんな外国に軍人として、または民間人としていたんですけど、戦後になって日本に帰つてきたっていう人もたく



さんいて、600万人ぐらいかな、確か帰つてきたの。日本に引き揚げてくるんですけど、引き揚げてくる港がいくつかあつたんです。いくつかある港の一つが、その京都にある舞鶴という港だつたんですね。そこにたくさん引き揚げ者がやってきて、いろんなドラマがあつたようなんですね。当時私も生まれておらず、詳しいことは分からないんですけど、いろんなドラマがある中で、舞鶴引揚記念館っていうのがあるわけです。もちろん中に

は帰ってこられなかった方もたくさんいて、それを待つ、日本のお父さん、お母さん、お祖父ちゃん、お祖母ちゃんがいたんだけど、我が子、孫を見つけることができなかつたっていうことも、たくさんたくさんあったようです。お祖母ちゃんがどこの港に帰ってきたのかは分からないけど、たぶんどこかの港、もしかするとその舞鶴かもしれないですね。そんな話を、今いただきました。一つ言い落としてましたが、3人の話をいただきましたら、あとでみなさんに振りますので、感想でも質問でも何でもいいから、手を挙げてくださいね。心の準備をしておいてください。こんなこともっと聞いてみたいとか、私もそういえば何回も転校したとか、何回もじゃないけど一回だけ転校したときにこんな気持ちだったな、あんな気持ちだったな、辛かったな、あの時に誰々ちゃんが声かけてくれて嬉しかったとか、そういう経験のある人もいるかもしれないので、そんなことも思い出しながら、後で発言をしてもらえるといいかなと思います。続いて佐賀さんにお話をいただきます。藍住中学校の3年生です。2年前に、清水さんと同様に中学生集会に初めて参加してくれました。3年生です。2年前です



から、ちょうど1年生ですよ。結構、佐賀さんのインパクトが強くて。2年前のことを参加されていて覚えている方もいるんじゃないかと思うんですが、ちょうどその辺りに座っていたんです。中学1年生の人、どれぐらいいますかね?あ、割と多いですね。はい、

ありがとうございます。彼女も当時1年生で、その辺りに座ってたんですけど。1年生、どう?今日頑張って発表してみる?おー、素晴らしい、うなずいてくれた人も、今たくさんいたけど。1年生で発表するっていっても、なかなかきつかったりするかもしれないですよ。けどね、彼女はよく発表したんですよ。何の発表したか覚えてるかな?

佐賀 何個か発表した気がするんだけど、一番覚えているのは、午後の部で発表した、クラスで人権学習してるときに、今だったらみんなちゃんと自分のこと言えよるけど、なんかそんな雰囲気でないみたい。どうしたらいい?みたい。

吉成 そうやな、「どうしたらいいんでしょうか?」みたいなのをみんなに問いかけたんですよ。どうですか、みなさん、問いかけられたら。最終学年の3年生のみなさん年季積んでますけども、3年生のみなさんどれくらいいます?年季積んでますから、今手挙げてくれた3年生なんかは即座に答えられるよな。(笑)なかなか厳しいでしょ、そう言われても。けどね、あの時不思議と、いくつも手が挙がったんですよ。しかも、同じ藍住中学校の3年生もそうだったんですけど、吉野中学校、板野中学校、応神中学校、とにかくいくつもの他の学校の3年生、2年生の子たちが意見を返してくれたんですよ。良い意味ですごく盛り上がったんです。こういうつながりっていいなって、後になって私も映像を何回も見ただけですけど。で最後に彼女はまた手を挙げてね、「ありがとうございます」みたいなのを言ったよな。何ていう素敵な1年生が入ってきたんだろうみたいなのを感じましたよ。その時に話してくれたことは、「クラスの人権学習が、何か今一つうまくいかないんだけど、学級や学校にいけないかな」ということを問題提起してくれ

たと思うんです。どうですか、みなさん。今、自分のクラス大丈夫ですか？みなさんの学校大丈夫ですか？うなずいてくれてる人もいます。頼もしいです。そんなクラスに、ぜひしていきたいと思えますし、この後、昨年、一昨年、1年たって2年たって、今彼女がどんな話をしてくれるのか、楽しみに聞きたいと思えます。佐賀みことさんです。拍手でお願いします。

佐賀 まずこんな機会いただいてありがとうございます。去年も言ったことがあるんで、知っとる人は知っとると思うんですけど、自分は弟が2人おって、一番下の弟が今小3で、その子には知的障がいがあって、名前言ったら、知ってますか？ダウン症なんです。知らん人がおるかもしれんけん具体的に言ったら、小学校3年生なんやけども、IQとかいう脳の発達段階が、2歳とかそんな感じなんです。だからといって何もできんわけじゃないんですよ。すごい可愛いし、自慢の弟です。何かね、天使なんです。言葉教えたなら何回も何回も言ってきて、すごい覚えてくれたり、今文字も頑張って練習しよって、肉とかが好きなんで、肉とかいつも書いて、自分が持つとるノートに、開けたら気がついたら落書きされとって、肉とか車とか。平仮名で。すごい可愛い弟がいるんですけど。ほの弟がいるおかげでいろんな障がいのある方と関わる機会がすごく多くて。「ねむのき」って知ってますか？あ、知ってますか。知っとる人が何人かおって良かった。「ねむのき」っていう、小っちゃい子とかそういう障がいのある子たちが入って勉強したりトイレのトレーニングしたり、そこで保育園みたいな感じなんですかね。(木の名前ではない?)フルネームは忘れたんですけど、「ねむのき」っていうのがあるんですよ、徳島に。そこに行きよったんですよ。今は行かんようになったんですけど。「ねむのき」に弟が行きよ

って、その祭りとかあって、それに行ったりして、障がいのある、例えば自閉症とかダウン症の子とか何人もおったし、それこそ体に障がいのある身体障がい者の方もおったりして。いろんな子がおるんで一括りにできないんですけど。そんな子たちと関わったりして。言ったら自分より小っちゃい子とよく関わってきたんですよ。「ねむのき」だけでなく、弟がダウン症の会に入っって、その集まりとかにも自分も行ったりして。一緒に遊んだりして。「ねむのき」では小っちゃい子がほとんどだったんですけど、今度は大きい人があるようになって、大人とか。自分より上の人とか。年齢が。すごいいろんな人がおるんやなって思うようになって。まあ言ったら、障がいのある方と関わる機会がすごく多かったですね。でも、実は今まで中学校になるまで、自分と同じ歳の障がいのあ



る方と関わる事がなかったんですよ。中学校に入って、小学校が西と南があるんですけど、ほれが合体したときに、自分のクラスに障がいのある子が同じクラスだって。その子をAちゃん、てするんですけど。初め1年になったときにはその子は支援学級とかには行かなくて、ずっとみんなと一緒にどの授業もするんですけど。同じクラスになって初めて会ったときは、お互い西小学校と南小学校だったけん、そこでまず壁があって、自分自身もすごい不安定だって。最初に自己紹介をするときがあったんですよ。一人ずつ順番に自己紹介をするんですけど、ほの時にAちゃん

は言えないんですね。言えんけん、ほの子は西小学校だって、同じ西小学校のAちゃんを知っとう子が、上から目線でいうか、「Aちゃん言いよ」とか、「早う言わな」とか、迫る言葉をすごい発して。それを見よって、「何かおかしいな」ってうちはずっと思っていて。ほれからちょっと日にちが経って、ほのAちゃんとうちが話をするようになって。だんだん、あれしいよ、これしいよ、「Aちゃん、Aちゃん」て上から目線で言よった子は言わなくなって、そのAちゃんはうちに頼ってくるようになって。そうなってからは、上から目線で言よった子は何も言わなくなって。Aちゃん自身もクラスにだんだん馴染むようになっていったんですけど。うちがAちゃんを通して、実はAちゃんとは中学校1年、2年、3年とずっと同じクラスなんですよ。たまたま縁があって。それでずっと今まで3年間過ごしてきて思うことは、今までさっきも言ったように「ねむのき」では年齢が下の子で、ダウン症の会では上の方とか下の子とかだったけど、Aちゃんは同じ年齢で、そうなるとうごいいろんな問題とかが見えてきたり、すごい自分自身が複雑な心境になったりして。ちょっと今も葛藤の日々なんですけど。



中1でAちゃんといろいろ話するようになって、だんだんAちゃんがずっとうちのところにおるようになって、「なあなあ、なあなあ」って来てくれるんですけど、ものすごく可愛いんですよ。可愛いし、いいなって、悪いふ

うには思うてないんですけど。なんか中学校1年の時ってうちも、学校が西・南で合体して、友達関係もすごい複雑な感じになっとなし、なかなか中学校の体制っていうか、そういうんに慣れるのに、すごいがんばらなあかんて思うとったけん、勉強やってテストとかもようけあるし、うわっとか思うとって。ちょっと気持ちに余裕がなくなっとなたりした時期があって、その時に作業していたらAちゃんが「なあなあ、みことちゃん」て来てくれても、なかなかずっとな話できる感じではなかって、ゴメン今はちょっと無理なんよって言うんやけど、やっぱりすぐにはなかなか分かってくれなくて。あー、これちょっと来たなって、自分もどうしたらいいか分からんようになってっとなし。たぶんAちゃん自身もうちらのことを同じ子として見とるけん、同じ学年の子で同じクラスで同じ勉強しよって友達っていう感じでおるけん、同じっていうふうに見とるけん、話もいっぱいしたいと思ひし、遊びたい気持ちもあるんやけど、ちょっとできんていうときに、気持ちがピタってはまらんていうか、どっかですれみたいなんがあつて。ほういうんを経験して、同い年っていうんで生まれた問題が、その一つで。1年になってAちゃんも友達増えてきて、2年になってまた同じクラスになって、2年になってまた新しい友達ができたんですよ。二人ぐらいかな。Aちゃんはうちのところにも来たりするけど、その二人のところにも行ったりするんですよ。だんだん日が経つごとに分かってきたんが、その二人がAちゃんと遊んびよん見よって、最初はほんまに遊んびよるよに見えるんですよ。楽しくしよんかなとか、教えてあげよんかなとか思ひよったんやけど、よくよく見てみたら、それはからかいなんですよ。AちゃんAちゃん、可愛いけん来て。そんなん言われてAちゃん行ったら、変な言葉いっぱい言よって。でもAちゃんにとつたらそれは遊びって思っとなかな、表現悪

いんかもしれないんですけど、そこでおった
らまだ居場所があるっていうのかな、そんな
感じなんで、一人でおるんは寂しくて嫌やけど、
こっちに來たらまだ友達がおるっていう、
そういう気持ちにたぶんAちゃんもなっとな
って。そういう変な状況に2年の時はなっとな
ったんですよ。うちはそれを見よって、明らか
にそれはおかしいって思っとなったけん、自分
がいけるときはAちゃんに話すんですけど、
一緒に話しよったら、その間は二人はど
っかに行っとなったり、そういうことがあっ
て。だんだんそれも担任の先生が分かってき
て、二人のことも注意するようになったんや
けど、その二人はAちゃんをからかったり、
いじめたりしようことを、周りの人が「お前
Aちゃんいじめよんだろ、ははは」みたいな。
そういう感じでいじめしよることに対して周
りも笑う。それをかきたてるみたいなふう
に笑う感じで。そういう悪循環にすごいなっ
となって。それっとなすごいおかしいけん、
おかしいなと思っとなうちも頑張っとな、
直接二人には何もしなかつたんですけど。
Aちゃんと話したりしよるうちに、だん
だんAちゃんもその二人がいじわるしよ
ることに気づいてきて。「みことちゃん
今日悪いことされた」とか言っとなきたり
して。だんだん日が経つごとにその二人
とは仲良くなくなつて、離れていっとな。
ほんで2年が終わっとな。そのいじめの状
況っとないうんも、同い年やからこそ起
こつた状況やなつてすごい思っとな。3年
生になつてからもまた同じクラスになつ
て。今も進行中っとないうんですかね、
続つきよんですけど。だんだんAちゃん
もいろんなことが分かるようになってき
て、すごいいろんな友達もできたし、
先生ともすごいいろんな話しするよ
うになつたけん、捌け口とか逃げ口とい
うか、そんなんはまだ1年の時に比べ
たら多くなつたん違うかなつて思っとな
んですけど。それでもやっぱりまだA
ちゃんのことを見る目は悪い面もあつ
たりして。Aちゃん自身も1年2年

とろんなことがあつて、すごい被害妄想
みたいなんが大きくなつてきて。ちよつ
と男子同士がふざけて悪口っとないうか
言い合いよんを自分に言われたつて捉
えたりするようになってきて。そうい
う感じに、だんだん、だんだん大き
くなつてきて。3年の時、今やけど、
夏ごろ6月？ちよつと分からないす
けど、それぐらいに男子がいっぱい
Aちゃんのところやつてきて、「好き
な子おるん」て訊くよになつたん
ですよ。ほんでAちゃんはビックリ
して、「うん」て言っとなしまつて。
うちから見たらその顔は絶対ビックリ
しとるとか嫌とか悲しいとかいう顔
が分かるんですけど、分らんかつた
みたいで、ほんまに「うん」て言
ようつて捉えつてしまつて。ほんで
男子が、



「Aちゃん好きな子おるんやつて」つてい
うふうにどんどん広まつて。次は「A
ちゃん誰が好きなん？」て名前言っ
て、「誰々のこと好きだろ」とか言
いだして。ほしたらビックリして、「
うん」て言っとなしまつて、ほれ
でもう勝手に誰々のことが好きつ
て決められて。「今度來るとき紙
に好きですつて書いとつてよ」つ
て言われてどっか行かれたりして。
そういう状況になつたときに、うち
はさすがにそれはもうやめてほし
いとすごいめっちゃ怒つて、やめ
たいなと、こんなんおかしいと思
つて。たぶんこれは先生も知らん
と思っとなんですけど、誰にも言
うてないし。男子が來て「書いと
つてよ」つて言つた後、どっか行
つて、Aちゃんがこんなん言
われたつてうちのところ
に來るんですけど、うちは「もう書
かん

でいい」って言って。「ほんなん書いたってあれやけん」で言って。「書かんでいいけんな」ってだけ言っとったんやけど、他の同じクラスの男子が、「書き書き」って言って。



ほんでついには小っちゃい紙を渡して、「ほこに好きですって書くだけでいいけん」とか言って。ほんでそのAちゃんの机の前に立ったりして、「ここに書いて」とか言って書かせよったんですよ。ほんでそれを他のクラスの男子も見に来て、「あー、書ききよる、書ききよる」とか言って、そんなことになったんで。昨日、優さんが言よった、ちょっとアカン例っていうのかもしれないんですけど、そのときうちは他の女子も見よるだけやったんで、めっちゃもう怒って。円満に解決する方法があつたらほれが良かったんですけど、ほれがもう思いつかなかつたんで、ほの男子に直接、「ほんまにほれやめ！」って言ったんですよ。「ほんなんはアカン」と。Aちゃんはビックリして「うん」で言ようだけなんやしとか言って。ほんなん言つたら、ほの男子もビックリしてどっか行って、それからその、誰々好きだろとか、そういう書かせるとかそういうことはまったくなくなつたんですけど。男女のそういうことが起きるんて、やっぱり同い年だからこそ起きるちゃうかなって思って。だって、上の人にそんなしたら失礼じゃないですか。下の子にやるんも、誰にやってもアカンんですけど。やっぱり同い年でずっとそこで一緒に生活しよるなかで起きることは、すごいいろいろあるなって思い

ます。同じ人って思ってしまうんかな。なんでもかは分からないんですけど。例えばAちゃんが、誰々にこんなことされたんよってうち以外の子にも言うんですけど、それ言ったことと、ちょっと時間たって言ったことが違ふかったみたいなんですよ。例えば、「〇〇くんにごけて言われた」って言われて、しばらく経って聞いたら、今度は「〇〇くんにかかって言われたって」いうふうに、ちょっとだけ違ふだけなんですけど、ほれで嘘つきとか言われたりしよん見て。うちは、「はあ？」と思うて。そんなんなあと思つて。ほれを聞きよって、何ちゃ分かつてないなあって思つて。自分もどうしたらいいか分らんところもあるんですけど。同い年に、そういう障がいのある子とつきあう中で、今すごいいろんな問題が起きとるんやなって思ひます。

吉成 なるほどね。もしかすると、クラスで「ねむのき」に行つたらいいのかもしれないね。こういう場もそうなんですけど、交流することってすごく大事だと思ひますよ。いろんな意味でいろんな人と交流するっていうことはね。だって、いい交流があれば裏切れないじゃないですか。思ひませんか？いい交流したら、その人のこと裏切れないことありません？だからやっぱり交流するってすごく大事



だと思ひます。もしかするとクラスの子たち、クラス外の子たちもそうかもしれないんですけど、そういう交流する機会に恵まれてこなかつたのかもしれないな。もしかしたら、

今までの育ちの中で交流する機会があればね、その子たちもそんなにはならなかったのかもしれないな。あのね、いじめの四層構造っていうのがあるんですよ。例えば、いじめに遭っている人が私の右手だとします。直接いじめに遭っている人、今で言うAちゃんかな。これ一つ目。直接いじめてる子、いじってる子、言ってる子、そのすぐ側でね。これ二つ目。こういうことは直接、言ったり、したり、手を下したりはしてないんだけど、その子の周りでそれを応援してる子。これが三つ目。すぐ近くで直接何かしてるわけじゃないんだけど、その子を間接的に応援してる子。これ三つ目。それとね、そのさらに外側、これ四つ目。直接言ってもないし、してもないし、その子の近くで取りまいてるわけでもないんだけど、このいじめてる状況は知っていると。知ってるけども、関わると面倒くさいから、逆に自分もやられちゃうかもしれないから、ちょっと見て見ぬ振りをしておこうかな。聞こえてるんだけど、聞こえてないふりをしておこうかな。これ四つ目。これをいじめの四層構造っていうんです。みなさん今言った三つの中のどこにはまります？わたし、ボクはどこにいるだろう？たぶん佐賀さんは、私の右手の、いじめられてる子に、ガツンと寄り添う存在に今なろうとしてるし、なっている気がするんですよ。直接いじめてるわけでもない、その取り巻きでもない、側でそれを見て見ぬ振りをしているわけでもない、この右手の子、Aちゃんにひたすらただ寄り添おうとしてるのかなって感じがするんです。それは、清水さんにお祖母ちゃんが言い聞かせてくれたこと。（「いける？」とか、いじめられよったりしたら、「どっかに一緒に行こう」って離れたりして寄り添いに行きなさいって…）いろんな闘い方があると思うんですけど、どんな闘いであったとしても、どうこの子と関わっていくのかっていうことを、二人は言ってくれたのかなって感じが

します。自分がどこに入るのかっていうことですね。これはみなさんにも考えられることなんじゃないかなって思います。三番目になりました。佐賀さんが、ガツン20分しゃべってくれたので(笑)、松浦さんの時間が少なめですが、頑張りますか！私もネタを持ってきてたんですけども、ちょっとネタを出さずに、そのまま振りたいと思います。私は前振りは避けておきたいと思いますので、この後2人のお話を受けて、お話をさせていただきたいと思います。第1回実行委員会委員長です。拍手で迎えてください。

松浦 ありがとうございます。まず最初に20周年大会おめでとうございます。これはもうホンマ、毎年の中学生のやる気と、あとはやっぱり先生たちが諦めてこんかった成果が、今の今日につながってると思います。ホンマ



に今ってこういう活動がしにくい状況なんよね。見ての通り、普通だったらこういう大会って、来賓の方とかおるはずなんやけど、ほれもない。っていうことは、サポートがされてないってことなんよね。ただ単に先生方が、これは守っていかなあかんていう思いを伝えて、みんながやる気になって、この大会を成功させようということ、今まで20年も続けてこられたんちゃうかなって思います。もう一度拍手しておきましょうか。(拍手)何も考えてないんです。しかもめっちゃ緊張してます。昨日、たった20分しか打ち合わせしてないんです。ほれまで、ボクはど

こでおったらいいかとか、どういう話をしたらいいかとか、全然何も聞かされてないまま、昨日たった20分で、2人がこういう話をしますって聞いて、「ああ、なるほどな」って聞いて、昨日いっちょも寝れなかったんですよ(笑)。まあ考えてないまましゃべるので、とびとびになったりしてしまうかもしれません。できるだけ何かが何とか伝わるようにはしゃべろうと思いますので、よろしくをお願いします。ボクは地元で青年として活動しています。中友の子だったりとか、高友の子だったりとかをサポートしながら、今はちょっと行けてないんやけども、子育てが大変で。まあ、結構密接にしゃべり合いながら活動してるんよね。ぶっちゃけ、みんなが運動や解放運動していくっていうんは、中学生のうちはこういう大会があります。高校生も学校ごとにしてる人権活動があります。だいたいもうほこで、悲しいかな終わっていつてしまってるんが、もう現実なんですね。ボクやみたいに青年として運動しよる子っていうんはほんまに少ないですね。大人として社会に出て仕事していつたりしてなかなか集まれないで、最初のうちはしよってもだんだん、だんだん集まる会に出れんようになってきたりとかして、お互い気まずくなったりして、なかなか運動続けていくっていうことは難しいことなんです。ほな、なんでボクはしよんだらうって考えたときに、いろいろとこういことがあって…っていうのがあるんですが、一つ昨日ちょっと話したんやけど。自分の差別意識、部落差別に関しては、ボクは受ける側なんやけど、他の差別問題に関しては自分はしたりとか、してしまったりとか、そういう側の差別意識に気づいたっていうことを話そうかなと思っています。外国人に対することになるかな。みんな社会科とか歴史の勉強してきたと思うんやけど、さっきも満州国とか出てきたと思うんやけど。ボク自身歴史の勉強しよって、あの当時の教科書マジック

かも分からんけど、強い日本ていうんがめっちゃ格好良く見えて、みんな元寇とか習った？モンゴルが日本に攻めてきて、二回神風で追い返したみたいなの。「うわっ、格好いいわー」って思うとった。ほこから日本が戦争に突入していく中で、大国相手にどんどん勝っていくっていう姿がごっつい格好良くて。



ほれがものすごく自分の中で大きいことになったんよな。ほれイコール、何に気づいたかっていうたら、植民地にされた人に対して、今でも歴史の話になったら、韓国とか中国の人とかが抗議したりしよるでえ、反日とか言って。ほんな人たちに対して、何言よななって、めっちゃ思うとったんよ。いや、お前らが負けたけん悪いんでないかみたいな感じぐらいに思うとった。二十歳ぐらいまではそう思うとったかな。でも解放運動していく中で、反戦平和とか、板野町だったらバンド活動しよるけん、島唄のことについて勉強したりとか、どういう意味で歌われとんかとか勉強したりしていく中で、自分で勝手に、何々やけんて理由をつけて差別をしよったっていうことに気づいたんよな。これって、いじめに関してもほうやと思うんやけど、ボクもいじめたことあるんよな。あいついじめたって何も言わんけんいじめたらええんじやわとかな、何かに対して〇〇やけんていう、勝手な理由づけやと思うんやけど。ほれで、こういう意識、自分にあつたなって気づいたときに、ほれが解放運動やと思うんやけど、解放されていつたっていうんが、一つの大きなボ

イントだったんよな。正直、差別やいじめしていい理由もないし、されてもしゃあないやいう理由もないし。してもいい理由、されてもしゃあないとか、ほういう理由、全然ないんよ。やっぱりほこに気づけたっていうんが、



一番大きなことだって。部落差別に対してはホンマに腹立つわとか怒りとかで、悲しみとか知ったうえで頑張んよったつもりなんやけど、他の差別に関しては、全然自分たちのことでいっぱいいっぱいになっとなって、照らし合わせたりできてなかったんやなって思ったんよな。やっぱり人権活動していく中で、何が大事なかって問い詰めていったときに、一番は命を守らなあかんと思うんよ。高校生友の会とか、いろいろな活動ができた中で結構聞いていて多いんが、結婚差別とかで命を絶ったとか、ほれを機にとかね、分かりやすく言えば水平社宣言とかもそうやけど、いろんなこういう会場で歌われよる歌とかにしてもそうなんやけど、ほんまにボクやの先輩の方たちが血を流し、命を懸けて、懸ける必要なんてほんまないんやけども懸けて、今まで守ってきた。ほれはやっぱり、今もいじめとかで自殺してしまうとかいろいろあると思うんやけど、ほんまに命を守るためにいろんな人が頑張ってきた結果やと思うんよ。実際、今こうやって人権人権て言えるんやって、そういう人たちが頑張ってきたけん、今ここまで言える状況ができると思うんよ。昔なんてほんな話すらできんような状況だった中、ちょっとずつ一歩一歩進んできたことと

思うんよ。今も学校生活の中の話とかしよったと思うけども。昨日ボクが、自分を守ってくださいって、よう言うんやけど。「ほれはアカンよ」って言うたことで自分が攻撃される可能性があるかもしれんていうことだったんやけども、やっぱり一番は言わなアカンのよ。言うて、ほの子が浮いてしまう環境がおかしい。別におかしいことしよるわけちゃうでえ。アカンて言うことがおかしいことではないでえな。ただ、今だったら浮いてしまうっていうことが起きたり、ターゲットにされてしまうっていうことがあるからおかしいなって思う意識を持った状態で、とりあえず自分を守ってくれという意味で昨日ちょっとしゃべらせてもらったんやけども。たとえば、ここがほの教室だったとしたら、果たして「イジル奴」っておるだろうかって。たぶんよう言えんのちゃうかなって思うんよ。やっぱりそういう環境作っていくっていうんが、今みんながここに来とう意義やと思うんよ。今、自分だけが理解しとると思うとることで苦しい思いとかしんどい思いしとると思うんやけど、こうやって横におったりとかして「一緒に言うてくれん？」とか、「一緒にアカンて言うてくれん？」とかいう仲間がようけおったら、たぶん言うていけると思うんよね。この会を通してね、ほういう仲間をどんどん、どんどん作っていくってほしいなっていうふうに思います。これはもうずーっと、この大会も20年しよるけど、20年間同じことの繰り返しになっと思ふんやけども。まず最初に自分に向き合っていくっていう、いじめられよる子がおったら、周りに見よるだけの子もおるだろうし、とりあえず言いにくいな、言えんなと思ふてもじもじしとる子もおると思ふんやけども、とりあえず先に自分に置き換えて、もし自分だったらとか、相手の気持ちになって考えてみてとかなったら、ちょっと頑張ってみようかなとかいう勇気が湧いてきたりすると思ふんよね。はい、分らんよう

になってきました(笑)。

吉成 ほら、中学生見ててすごいなと思ったのはね、例えばこの後もたぶん手を挙げて発言してくれるって信じてるんだけど(笑)。言ってくれる子もいるのよ。だけど、なかなかその勇気が出ない子もいるのよ。実際に言って。それをね、昔すごく責めたときがあった。



若僧のとき。今も若いんだけど。ここは笑うところね(笑)。すごく責めたときがあったのよ、どうして手を挙げないのって。けどね、ひどい自分だったなって、今は思いますよ。ていうのは、中学生の姿見てたら、本当に友達同士の子ってね、こんなことしてるんですよ。「言わんの？言わんの？言おう！言わんの？」っていうことを、横同士でやってるんですよ。それをされると、言う気がなくても「ほな言おうか」みたいな感じになるんですよ。それをね、さっき清水さんが言ってくれた、「たてまえ・たてじわ・たにんごと」っていう、三つの「た」っていう言葉があるんですよ。これ一番やっちゃいけないこと。「たてまえ」で話をしてちゃ、全然寄り添えないよっていうこと。「たてじわ」っていうのはね、眉間ていう、目の目の間、眉毛と眉毛の間にしわが寄ることなんです。こんな感じで。気難しい顔をすることなんです。こんなので、どんな話ができるのっていうことなんです。気難しい顔をしているところでは、気難しい話にしかならないでしょっていうことで、そんなんじゃ物言い難いよねっていう

ことなんです。「たにんごと」他人ごとで話が進んで、どうして本音で話ができるっていうことなんです。「たてまえ・たてじわ・たにんごと」ってね。そういうんじゃないかって、やっぱりみんながいい雰囲気、思っていることが言えるような状況をつくって初めて物事っていうものは前に進んでいくんじゃないかなっていうことなんです。そういうことを、中学生同士の関係性だったらできるんじゃないのっていうことなんです。前で恐そうな先生が立って進めるよりも、みんな同士だったらできるんじゃないのっていうことなんです。そういうお話を、今していただいたわけなんですけども、この後みなさんに発言を求めていくので、手を挙げる準備をしておいてね。「人権のなきところに平和はなし」人権のないところって、平和じゃないことないですか？「人権なきところに平和はなし」その逆、「平和なきところに人権なし」どうです？平和のないところには、人権で考えられんことないですか？今3人の話を聞いていてね、すごくその言葉を思い出しました。戦争の問題、いじめの問題、障がい者の問題、部落問題、どれについても共通して言えることなんですけども、本当にね、「人権なきところに平和なし」「平和なきところに人権なし」そういうのを、今日はみんなで話し合いをしながらつくっていったらなって思います。残り時間がわずかになっちゃったんですけど、この後みなさんに、司会者の方から発言をふってもらいますので、マイク係さんの用意もいいかな。

司会者 どうもありがとうございました。それでは残りの時間、感想や質問、意見交換を行っていきたく思います。マイク係として藍住中学校2年のhさん、大麻中学校2年のiさん、そして大麻中学校3年のjさんの3人がフロアをまわります。記録の関係上、発表者は団体名、学年、名前を言ってから発表し

てください。それではよろしくお願ひします。時間もないので、誰でも手を挙げてください。お願ひします。

上板中学校 2年 k 私が言いたいのは、清水香帆さんの話についてです。私は中国から日本に転校したので、さっきの転校生の話はちょっとだけ分かります。日本に転校したばかりの時は、最初の時は話してくれる相手もいたけど、だんだん話してくれる同級生が減って、最後は一人になって。その時に、クラスの中のある女の子が話しかけてくれて、その時私は本当に嬉しかった。でもそれは嬉しかったけど、最初は学校のいろんなことが分らんかったし、日本の学校生活の文化とかもいろいろ違ったし、だからその時はいろんな話聞けたけど、それがだんだん共通の話がなくなって、その後一人になって。その時はちょっと傷ついたなっていう感じもあったので、簡単に話しかけてもいいんだろかって思っています。話しかけたら自分にも責任があつて、自分が話しかけたら自分が責任を持って、そのことをちゃんとやるのが大事だと私は思います。簡単に話しかけてもいいでしょうか？

清水 いいと思います。どんどん話しかけていいと思います。

上板中学校 2年 k でも共通の話がないと、話を続けるのが難しいと思います。だから私は、自分に本当に合う人に話しかけるのはいいと思うけど、話が合わないと、こうやって簡単に話しかけるのはちょっと悪いかなと思います。それと、吉成さんの話について、「人権なきところに平和なし」これは賛成しますが、「平和なきところに人権なし」という話には疑問があります。平和がないところでも、それは敵と味方に分かれてる可能性はありますから、そこには人権が絶対ないとは

言えないと思います。平和じゃなくても一人ひとは違うから、人権はまだ存在すると思います。

吉成 ありがとうございます。こうしてもらえると考えますよね。そう思いませんか？みなさん。考えるでしょ。考えるっていうことがすごく大事なんだと思うんですよ。どっちなの？どうなの？本当はなに？っていうことをね。何が正しいとかそういうのじゃなくて。kさんが2年生であることがすごく心強いです。来年も参加できる。日本に来たのはいつって言ってました？今年の2月ですよ。日本語の勉強はしてないんですよ。これ、どうですか。すごいと思いませんか？この日本語力。ホントね、どんどん話しかけていって、いろんな中国のこと知りたいですね。教えてほしいです。まだ1年ありますから、しっかり話しましょうね。



板野中学校 1年 l ボクは佐賀みことさんの話を聞いて、ボクたちの板野中学校にも、ボクのクラスにも、Bくんという知的障がいと思われる障がいのある子がいて、その子も自分には面白くて。表現は難しいんですけど。友達はそのうちのをからかったりしてるんですよ。みことさんの話を聞いて、やっぱりそれをおちょくるっていうのは、障がい者に対して差別をしていて。そのおちょくるっていうのは、人権をなめているっていうか、ちゃんと勉強してないけん分かってないって思っ

て。おちよくったりして人権のことがまだ分かってない人には分かってほしいし、障がい者やけんでボクたちと違うっていうんでもないんで、やっぱりおちよくったりするんは最低と思いました。それと、吉成さんの話も聞いて、「人権なきところに平和なし」は、ホンマにそうと思います。でもやっぱり、「平和なきところに人権なし」はちょっとおかしいっていうか、ちょっと違うと思います。平和がなくても人権はあると思います。例えばマララさんは銃で撃たれても女性に勉強を受けさせてあげたいとかいうのもあるし、そういうのがあるから、勝手に決めつけるのは良くないと思います。(笑)

板野中学校 1年 c 言いたいことが変だと思うんですけど、ボクは転校はしたことないんですけど、友達が転校して。転校というより、小学校まで一緒に中学校で分かれたんです。いっぱい話してたんですけど、話す機会が全然ないんで、LINEとかもしてないし、何もしてないんで話す機会となくて、どんどん存在感というか、消えてはないくんですけど心の中からおらんようになってくるんがたまにあって。友達から言われたら思い出んですけど、言われなかったら全然思い出さないので、ほのことに對してちゃんと友達って思ってるんか自分でも不安で。清水香帆さん、そのことをどう思いますか？

清水 私も6年生の時に、歩いて家から10秒ぐらいのところ。めっちゃ近くて、一緒に毎朝学校行きよって。ほこに小学6年生の時に、山形から転校してきた子がいたんですけど。ほの子とめっちゃ仲良かったんですけど、ほの子は受験してしまっって、国府中学校じゃないところに行ってしまったんですよ。ほの子もメールもLINEも持ってないからつながってないし、私も今仲いい子だけの関係でいっぱいいっぱいになってしまう時があるの

で、それすごい分かります。あともう一人、6年生までずっと一緒に学校行きよって、6年生で受験して離れたもう一人の子も、年賀状も一回も自分も送れてないし、向こうからも届いてないし、全然会ってもないしで。その子のことは、さっき言よったように友達との会話で出てこん限りは私も忘れてしまとるから、さっき言よってくれたことが、めっちゃ共感するなって思いました。



佐賀 ちょっと転校の話とかが出とんで言いたいんですけど。うちも転校したんですよ。小学校3年生の時までは高志小学校でおったんやけど、小学校4年からは今の藍住南小学校に来て、今もほのまま藍住中学校におるんですけど。その時に高志小学校で一緒におった子が、なんと人権集会で今年から上板中学校でおるんですよ。(拍手)ちょっと話聞いてみたいんですけどいいですか？急でごめん。その時のとかでもいいし。うちはrのこともずっとずっと覚えとって。人権集会で今年初めて会ったときは、ホンマにびっくりして。

※ () 内は**上板中学校3年 r**の発言
(あんま変わってなかったよな。)さっき言よったんは、連絡とかとらなくなって、存在が離れたってこと言よったけど、連絡もとってなかったよな。とってなかったし全然知らなかったけど、会ったら、(もう、普通な感じで。)壁なかったなあ。会ったら会ったで、ワーってなるんです。(普通な感じで話せて。5年ぐらい話せてないときもあったけど、み

ことも笑顔で接してくれて、めちゃ嬉しかった。)3年までと、今のうちはちょっと違う?(あんなま変わってない。)変わってない?変わってない?(何かもう、みんなフレンドリーみたいな感じで明るかった。)(笑)まあ、こういう人もいるって感じですね。

板野中学校 2年 m 清水香帆さんが言っていた転校の話なんですけど、私も幼稚園のちょうど終わりぐらいの時に、小学校に入る2ヶ月前ぐらいですかね。板野の方に、藍住から転校してきました。転園て言うた方が正しいのかなっていう感じもするんですけど。やっぱりほの時に、友達と離れるんは悲しかったんですけど。板野に来てから最初にできた友達がおったんですけど、その友達と仲いい子に意地悪されるようになってしもうて。ほんで幼稚園ではかなり孤立しとったんですけど。小学校に入ってからかなり友達ができ、一時期いじめられた時もあったんですけど、時間が経つにつれて友達が増えてきて、結果的に転校して良かったなって思います。それと佐賀みことさんが言っていた同級生の障がいのある子の話を聞いて。私にも小学校のころに、知的障がい?のある子がおったんですよ。私は最初話しよったときに別にそんなん分からなかったんですよ。その子と仲良かったんですけど、クラスでいじめられよん知って、私は仲良かったけど、仲いい子がいじめよったけん止めることができなくて、それが今でも心残りです。それとkさんが言っていた、「趣味の合う子と話した方がいい」とか言っと思ったと思うんですけど、私は実は周りの子はみんなタイプが違うんですよ。ほとんどみんなバラバラで、趣味も全然違うかったりするんですけど、みんな仲いいですよ。ほなけん、もっと気軽に話しかけてもいいん違うんかなって思います。

司会者 それではもうそろそろ時間が来たの

で、どうしてもこの場で発表したいっていう人だけお願いします。じゃあ6人だけで。

応神中学校 3年 e さつき香帆ちゃんが言っていたことで、お祖母ちゃんが言っていたって寄り添うだけでいいっていう言葉聞いて、その通りだなと思いました。私もいじめられてるみたいな、すごいひどいことされたことがあって、今思い出だけでも吐き気がするんですけど。でも、そんな時に寄り添ってくれる人がいたんですよ。それで、寄り添ってくれる人がいるだけでも、ものすごく心強かったのだからそのお祖母ちゃん言葉は正しいと思います。



大麻中学校 3年 n 佐賀みことさんの最後の方に、吉成先生が言ってくれたことで、交流することが大切だって言ってくれたじゃないですか。大麻中学校では、識字学級の方との交流をしているんですよ。だいぶ前に、ボクたちの学年でも交流させていただいて、交流させていただいたときの、大麻中学生の態度がちょっと悪かって、どないしたらいいんだろうなって考えよったんですよ。今でも悩んみよんで、もしよかったら昼休みに教えてください。どうしたらいいか、お願いします。

高浜中学校 3年 o 佐賀みことさんのことで、私の知り合いにもダウン症の子がいて、どうやって接していいか分らんくて、そしたらその子のお母さんが、何でもいいから遊ん

であげてとか言ってくれたので、これからも人の心を大切にしていきたいと思いました。

板野中学校 2年 p 私も小学校の時に知的障がいの子がおって、その子と最初の方は結構仲良く遊んびよったんやけど、その子があんまり友達がおらんかって私の方に頼ってくるのがすごく多くて、自分がプレッシャーを感じて、その子を押しのけるようなことをして。それからあんまり話さんようになったんですけど、佐賀さんの話を聞いて、私も佐賀さんみたいに親身に寄り添ってあげたりしよったら、その子と今でも仲良くおれたのかなって後悔してます。

佐賀 たぶん、pさんみたいな子が何人かいます。ほなけん友達なんですよ。



藍住中学校 3年 q 清水香帆さんの件で、一度幼稚園のころに、父親の都合で藍住東幼稚園の方に一回転校して行って、また2年のころに藍住南小学校に戻ってきたんですけど。ほの転校の初日に、自分のコンプレックスで、顔の真ん中にほくろがあることで、すごい今でもかなり人に嫌なこととか言われるんですけど。その初日とかにやっぱりいじめられたりして、すごい傷ついたんで。その時、幼稚園のときからずっと遊んでいた友達からもすごく言われたりして。転校してきたら意地悪を言われるみたいな、そういう子が他にもおったんだと、ちょっと心の中でホ

ッとしている部分もあって、何かすごい嫌な部分もありました。佐賀さんの件で、ボクも佐賀さんと同じクラスだったんで、友達と独特の世界作って休み時間とかおるんですけど。やっぱり体育祭とかクラス全体でやるとかなったら、この子クラスでの態度おかしいなとか、この子いじめられよんちゃうかなみたいなこと思ってたんですけど。さっき吉成さんが言ってたいじめの四層構造の話で、それを今まで気づいてなかったんやけど、それって一番最後に言ってた、周りを取り囲んだその後の部分に入るのか説明してほしいんですが、よろしいですか？

吉成 自分がどこに入るかっていうこと？どういう状況だったのかな？知らなかったっていうこと？いいこと言ってくれた。さっき私が言ったのは、いじめの四層構造っていう話なんだけど、実はこれは不十分だと思ってるんです。いじめの四層構造っていうのは、徳島県とか文科省も言ってることなんだけども、実は5番目があると思ってるのよ。いじめの五層構造だと思ってる。今のあなたの話聞いてたら、その5番目の層にいるような気がするのよ。その5番目って何かって言えばね、その起こってることをまったく知らないっていう子がいるのよ。正直言って、本当に知ら



なかったっていう子がいるのよ。だって、いじめ自体が陰湿なところで起こってたりするじゃない。オープンだったりもするんだけど、ネット上だったりとかLINE上だった

りとかで、本当に陰湿で知らないっていう子いるのよ。5番目の層として。その層にいるのかもしれないっていう気がする。だけどその5番目の層の子も、知ったら、知った段階でどこかに入っていくのよ。じゃあ、知った段階でどこに入るのかな、一番目のいじめられてる子にとことん寄り添うようなところに入っていくのかな、それとも直接いじめる側に入っていくのかな、その子を応援する傍観者のところに入るのかな、さらにいくとそうじゃなくって、見て見ぬ振りをする子の中に入るのかなっていうところね。どこかに入っていくのだと思うのよ。5番目の層の子も。それで考えてみたらいいんじゃないかな。(分かりました。ありがとうございます。)

に交流し合いながら食事をし、お昼のひとときをお過ごしください。なお午後の部の開始時刻は13時です。遅れないように元の場所に集合してください。よろしくお祈いします。それではいったん解散してください。



司会者 まだまだ発表はあると思いますが、発表できなかった思いを大切に、全体会午後の部に活かしてもらいたいと思います。それではこの辺りで全体会午前の部を終了させていただきたいと思います。最後にもう一度拍手をお願いします。(拍手)さて、この後、昼食休憩となります。お弁当を注文された団体はお弁当の引き替えを行いますので、代表の方は1階の受付へお越してください。なお、基本的にお弁当はこの場所で食べてください。また、後から来られて受付をされていない方は、1階の受付にお越してください。さらに、まだ名札をつけてない方は名前が分からないので、この後、全体会場の後ろの席で作り、必ずつけておいてください。それではお互い